

瀋陽駐在員事務所



茅台酒（マオタイ）

「1本1億円！」

中国のお酒といえば「チンタオビール」と「ショウコウ酒」が日本ではポピュラーである。しかし、瀋陽では「雪花ビール」と「白酒（バイジュー）」であることをご存知の方も多いのではないだろうか。その「白酒」の中で高級酒と言われているものに「茅台（マオタイ）酒」がある。普通1本 890 元（11,500 円）で売られているが、なんと1本 890 万元の値がついた茅台酒がある。その名は「漢帝茅台酒」、日本円にして1億 1500 万円也。世界に 10 本しか現存しない幻の白酒である。乾杯グラスが 20mlだから、乾杯 1 杯 460 万円也！なんと贅沢な酒である。購入者いわく、「1千万元あっても大都市の豪邸は手に入らない。890 万元でこの白酒を手に入れることができたのは非常に価値がある」。なんとバブリーな話である…。

正司 毅

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室



加油！給力！日本（がんばれ！日本）

遅ればせながら、この度東日本大震災に被災された方々にお見舞いを申し上げます。そしていち早い復興を心よりお祈り致します。ここ中国でも地震のニュースは連日トップニュースで報道され、当初は全てリアルタイムで情報が入っていました。その後すぐに募金やチャリティー活動が始まりました。今回日本国内でも大変な金額が復興支援として集まっていますが、中国でも赤十字社が中心となって大きな金額の募金が集まっています。またジャッキー・チェンが中心となった著名人達が、被災した盛岡出身の詩人宮沢賢治が書いた『雨ニモモ負ケズ』を歌にしてチャリティー活動を大きく展開しています。全員日本語で歌っているところに心を打たれました。

また北京市内の日本料理屋『蕎麦人』では、「和諧そば」というメニューを急遽作り、価格の50元（約650円）のうち30元を中国赤十字社に送るという活動を展開し始めました。この『蕎麦人』は以前、北海道の『高田屋』で働いていた店長が開いた店で、店長は北海道出身です。

地震直後、当事務所に関わる多くの中国の方からもお見舞いのメールをいただきました。時に外交問題が取り沙汰される両国ですが、やはり隣人です。今多くの中国の方が「加油！給力！日本」と応援しています。

中島 康成

TOPICS

とぴっくす

TOPICS ~in海外~

ユジノサハリンスク駐在員事務所



ロシアでの買い物



トイレにキッチンペーパー？

「初めての海外勤務で……！」

4月1日付で異動となり、11日にユジノサハリンスクに着任しました。英語はおろかロシア語が全く話せ無い私が、こちらに来て早、二週間が過ぎ去ろうとしています。今回は、そんな私が経験した笑える失敗談をいくつかご披露しましょう。

ロシアでは日常生活する上で、次に上げる5つの言葉が使いこなせれば全く苦は感じません。

1.「ズドラストヴィーチェ」英語の“ハロー”と同じような意味です。ロシアの場合、日本と違い、朝・昼・晩とこの一言で挨拶が通じることは非常にうれしい限りです。2.「イズミニーチェ(すみません)」で声を掛け、3.「パジャロスタ(どういたしまして)」で言葉を返せば、大丈夫です。4.「スパシーバ(ありがとう)」私はこの言葉を良く使っています。最後に、5.「ダスヴィダニア(さようなら)」です。良く道を歩いていると、小学生くらいの子供から、私(日本人に見える)に対して「さようなら」と声を掛けられます。また、市場でも売り子さんから「さようなら」と声を掛けられました。ここユジノサハリンスクでは「さようなら」と言う日本語が流行しているのでしょうか？実は私も偶然ですが、最初に覚えたロシア語は「ダスヴィダニア」でした。

一方、ロシア語の意味が分からなくて買い物で失敗した例をご披露します。

先ず、食器洗いの洗剤だと思って買ったなら、それはトイレ便器の洗剤でした。さすがにこれはキャップを開けたら強烈な匂いがしたので変だと分かりました。次に、少し高いトイレトーパー(4個で1パック)を買おうと思い、いざ使おうとビニールを破くと、それはトイレトーパー2個分の幅のあるキッチンペーパーでした。でも、しかたがないので、その時はそれを使いました。シャワーを浴び、いざ体を洗おうとスポンジにボディーソープを付けても、なかなか泡が出ません。恐らく、それはスキンローションなんだろうな？まだまだあります。朝食にコーンフレークを食べようといざ牛乳を掛けようとしたら、それはとろりとしたヨーグルトでした。しかし、日本と違い味は全く無く、健康診断のバリウムの様なひどい味でした。最後に、ロシアでは水は買って飲む様にいわれたので、2ℓ入りボトルの水を買い、キャップを捻ったら、「ピッシュュー」と音がして、飲んでみると全く味の無い炭酸だったと言う。ロシア語を理解していたらと言う話でした。

しかし、まだ二週間ですが、日々生活環境にも慣れ、今はロシアを満喫しています。

三上 訓人